

♪「Accordion Spring Concert 2011」ぶらり訪問記♪

主催:ともしびアコーディオン合奏講座

日 時 2011年4月24日(日)午後2~4時
会 場 新宿文化センター小ホール
交 通 JR、京王線、小田急線「新宿」駅東
口より徒歩15分、他
料 金 2,000円(前売り)

新宿駅からの道順を間違え、15分ほど余計な時間を使ってしまい受付に着いた時にはプログラム4番目の方が演奏中でした。残念ながらオープニングの全員合奏「ペルシャの市場にて」他、独奏3曲は聴くことが出来ませんでした。

「トリッチラッチポルカ」はピアノにアコーディオン2人、さらに女性3人が合唱で加わる。このようなアンサンブルで演奏できるのも、“ともしび”の魅力と言えます。

同じコーラスメンバーによる次の演奏、賛美歌(アコーディオンは5人)もしっとりとてもきれいな演奏で、大震災の後だけに東北の被災地を思いながら聴きました。

1部の最後は、司会者のコメントにあった

人形の踊りと一緒に聴いたことのあるコミカルな曲「ドライブーンズ」でした。

第2部は、“アコーディオンで世界1周”とうたった企画です。「交響曲第9番(新世界より)第2楽章で始まり、「峠のわが家」(アメリカ)、「恋心」(フランス)、「君の影になりたい」(ベネズエラ)、「黒いオルフェ」(ボサノヴァの演奏が多い)、「フェリシア」(タンゴ)、「鷗」(日本:木下牧子作曲)など多彩なジャンルで他のコンサートでは味わえない構成で楽しませてくれました。

全体に決して威張らない、しかしピアノツシモでもしっかり主張している演奏で感心しました。会場の音響のためか、もっと盛り上っても良いのにと感じて聴いていたけれど、終わってみると優しい音色でしっかりバランスの取れた演奏でした。

最後に挨拶の中で、東北の遠藤勇さんからのアコーディオンを持って避難したというエピソードとアコ仲間として、音楽の力で心の復興を願っていますとのメッセージが紹介されました。

写真は合唱団の方々が加わってのフィナーレ「愛に生き平和に生きる」「ふるさと」の様子。(乙津:記)



ように骸骨の骨がばらばらになったりまた人間の形に戻ったりする操り

